

マイウェイ

No.82
2012

かながわ 民俗芸能物語

鎌倉・藤沢編

監修・文 石井一躬

写真 桜井ただひさ 林溪泉

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成21年3月発行 ● 発行人 山上 晃 ● 編集人 富安良和 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-252-1771(直通) ㈱西北社 大日本印刷㈱



石井一躬 神奈川県民俗芸能保存協会会長
鶴岡八幡宮の鎌倉神楽、遊行寺の念仏行事など、鎌倉・藤沢の民俗芸能をご紹介します。

御霊神社の面掛行列

鎌倉市坂ノ下

爺、鬼、異形、鼻長、烏天狗、翁、火吹男、福祿寿、おかめ、女など
奇怪で滑稽な面をかぶった仮面行列が町内を練り歩く。

華やかで厳かな祭礼行列

九月十八日の御霊神社ごたまらの例祭には全国でも珍しい仮面を用いた行列が行われます。

御霊神社は、御霊社の名で平安時

のことに由来します。

代後期には既に相模平氏五家の祖を祀って鎮座していましたが、後三年の役（一〇八三〜八七）で左眼を射抜かれながらも奮戦した鎌倉権五郎景正ごんごろうけいまさの御霊をも合わせ祀って祭神としました。別に権五郎神社とも呼ばれるのは、こ

面掛行列のほとんどは、鶴岡八幡宮の祭礼に連なっていたのですが、御霊神社では十八世紀に入り、鶴岡八幡宮の祭礼に倣って面掛行列が整えられ、さらに明治に入って八幡宮では行われな



面掛行列（県指定無形民俗文化財）。写真上は、天狗面をかぶった猿田彦の神を先頭にした祭礼行列。右下は、獅子頭（二頭のうちの一头）。左下は、神輿の渡御。

くなくなったため、現在は御霊神社のみが、その伝統を引き継いでいます。

当日の午後、境内での鎌倉神楽（湯立神楽・湯花神楽の別称）に引き続き、面掛け十人衆と呼ばれる仮面が、大榎おのゑ・囃子はやし（屋台）・鉾ほこ・天狗てんぐ（猿田彦）さるた・長刀ながやち・弓矢ゆみや・白旗しろはた・先槍せんやり・獅子ししに続いて神輿みこしの渡御に伴い社前を出発します。一行は極楽寺坂下まで行道し、引き返して海岸に降り、坂ノ下の通りを一往復し再び社前に戻るので、総勢百名を越える威容で、長さは百五十メートルに及びます。面の裏には明和五年（一七六八）の朱書があり、江戸時代に制作されたものと伝えられています。



右は「翁」。左上は「翁」と後ろは「鬼」。左下は「福祿寿」。それぞれ袖なしの羽織姿で頭巾をかぶり、町内をゆっくりと練り歩く。滑稽にも異様にも見える行列である。

これらの仮面に共通するのは仮面の横幅が広いことと、男の面の鼻が極端に大きいことです。これは伎楽面の特徴でもあります。伎楽というのは、推古天皇二十年（六一二）に百済の帰化人味摩之が中国の呉の国で学んで伝えたといい日本最初の外来楽舞です。奈良時代を最盛期とした後衰え、鎌倉時代末にはほぼ滅んだといわれ、仮面は正倉院や東大寺などに残されていますが、楽舞そのものは伝わっていません。

面掛け十人衆の特徴

面は十面で、本来は特に名称はなく、面裏に一番面、二番面などと数字で表示されているのですが、古くからの

俗称では順に、翁、鬼、異形、鼻長、烏天狗、翁、火吹男、福祿寿、おかめ、女と呼んでいて、近年この通称で呼び習わすことが多いようです。

翁は、白塗りで垂れた目尻と大きな口と鼻、額の皺に特徴があります。

鬼は、大きな口と牙、そして丸い目が特徴です。

異形は、大きな口と鼻、そして釣り上った目尻で、まさに異形です。

鼻長は、垂れ下がった長い鼻から名付けられたものでしょう。

烏天狗は、その名の通り、くちばしが曲がった烏に瓜二つです。

翁は、頬骨が飛び出したほほ笑んだ顔をしています。

火吹男は、右の方に向けて突った口をしていて、火吹き竹を吹く口元に似ているようで、俗にヒョットコとも呼ばれます。

福祿寿は、三十センチを越える長い頭の持ち主です。

衣装は、それぞれ袖なしの羽織に袴、頭巾、白足袋に草履というものです。

おかめは、愛嬌あふれる女性の顔を模したもので、妊婦のすがたをしています。このおかめだけが膨らませたお腹を両手で抱えるようにして歩く所作をします。

女は、天冠を頂いています。おかめに付いて歩くので産婆（とりあげ）ともいわれています。



写真右上は「異形」。左下は「火吹男」。左上は、妊婦の姿に仮装した「おかめ」。その大きなお腹から「ハラミット（孕み女）」とも呼ばれ、安産祈願にお腹に触れるひとが多い。天冠を頂いた「女」は産婆ともいわれ「おかめ」と対になって歩く。

材木座海岸の汐神楽

鎌倉市材木座

鎌倉神楽を奉納して漁師たちが豊作・大漁と一年間の無病息災を祈願。赤面の天狗と黒面の山ノ神の滑稽な掛け合いが見ものです。

鏡開きの一月十一日、鎌倉市材木座海岸では汐神楽が行われます。

薄べりが海岸に敷かれ、四方に忌竹を立て幣を下げた注連縄を張り巡らし、海に向かってお神酒・野菜・魚・蜜柑などが供えられた祭壇が、さらにその左脇隅には羽釜をかけた竈が設えられています。

神楽の次第は、鎌倉神楽なのですが、ここでは最後の「剣舞」に登場する大きな杓文字を持った山ノ神（黒面）が

大活躍をします。よその鎌倉神楽では鉾が配られることが多いのですが、こ

こでは蜜柑が配られます。散歩に来ている保育園児に近づいて怖がらせてみたり、帽子を奪って自分の頭に被ってみたり、蜜柑を与えたり杓文字で頭を撫でたり、見物席に蜜柑を投げ入れたりもします。どうやらこの蜜柑には無病息災のご利益があるようで、蜜柑を手にした人々のにこにこ顔はなんとも微笑ましいものです。

さて、神楽が終わると、どんど焼きが祭場の西側で始まります。

青竹を中心にして積み重ねられた門松や御正月の飾り物が神職によって点火されると、たちまち火煙が立ち上り竹の爆ぜる音が響きます。この火に向かって手を合わせ、一心に願い事をしている地元の方の姿が見受けられます。このような民俗が、素朴な姿で残されていることが、何とも好ましく思えてなりません。



海に向かって祭壇をつくり、豊作・大漁・無病息災が祈願される（写真右上）。祭壇の隅では釜でたぎらせた湯による清め祓いの神事である湯立神楽（鎌倉神楽）が奉納される（左上）。神楽の最後に赤い面の天狗と黒い面の山ノ神による「剣舞」が奉納され、お供え物の蜜柑が参列者に配られる（中3点）。右下は、神楽のあとの「どんど焼き」。



鶴岡八幡宮の 神楽

鎌倉市雪ノ下

大釜でたぎらせた湯を用いて神前に奉納する湯立神楽(鎌倉神楽)と、
八百年の時を経てよみがえる宮廷御神楽の幻想美。



横笛と太鼓による打囃子から始まる湯立の神事・鎌倉神楽。写真は、祭場・祭具を清める舞。



湯釜の湯の力による神楽

鎌倉市雪ノ下の鶴岡八幡宮には、二種類の神楽が伝えられています。その一つが、鶴岡八幡宮の末社の丸山稲荷社の十一月八日の火焚祭の祭典の後、行われる鎌倉神楽です。

四隅に真竹を立て注連縄しめなわで結び、緑・赤・白・青の紙の幣を下げたヤマと呼ばれる祭場近くに据えた大釜で、煮えたぎらせた湯による清め祓はらいをする湯

立たての儀式を中心として行われるものです。

これは、明治の初めに絶えた伊勢の外宮げぐうの御師おかしたちの神楽(寄り合い神楽)がその源とされています。一般的には、湯立神楽もしくは湯の泡にちなんで湯花神楽と称されることが多いのですが、海岸地方では潮(汐)神楽とも呼んでいます。また、鶴岡八幡宮に職掌として奉仕した神楽男かぐらおが伝えたことから鎌倉神楽といわれ、鎌倉周辺から三浦半



湯立神楽(鎌倉神楽)は、神職が熱湯に笹の葉を浸して掻きまわし、四方に振りかけながら舞うことからその名がつけられた。飛び散る湯花(湯玉)を浴びると、一年間無病息災とのこと。曲の最後に天狗と山の神が縁起物の鈴をまき散らす(写真下2点)。

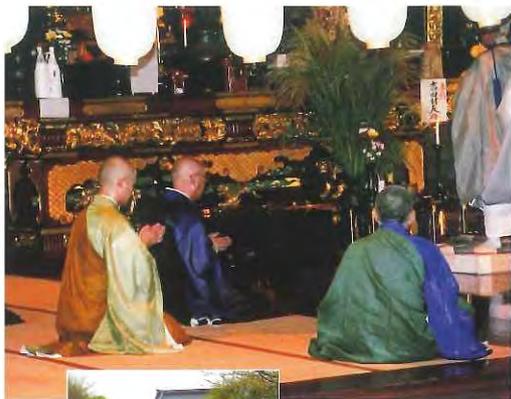
島にかけて広く分布しています。

神楽は、打囃子、初(羽)能のう、御祓おはらい、御幣招ごへいまき、湯上ゆあがなどの祭場・祭具を清める曲目に始まって、按湯おん、大散供おほさんく、湯座ゆざ、射祓いはら、剣舞けんまいなどに続き毛止もとどで終わります。御湯、按湯、湯座が湯立神楽の特徴的なものですが、中でも湯釜に入れた湯笹を左右に大きく振る湯座は圧巻です。

平安の雅を今に伝える御神楽

御神楽みかぐらは十二月十六日の鶴岡八幡宮の御鎮座祈年祭に行われる神楽です。

神楽は大きく宮中で行われる御神楽と、民間で行われる里神楽さとかぐらに分類されますが、鶴岡八幡宮の神楽は宮中から



毎年9月15日に時宗総本山
清浄光寺（遊行寺）で行わ
れるすすき念仏会。

遊行寺の 念仏行事

藤沢市西富

時宗の開祖・一遍上人が遊行の際に創案したと伝えられる踊り念仏。
「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えながら、輪になって踊る法要の儀式です。

静かで厳粛なすすき念仏

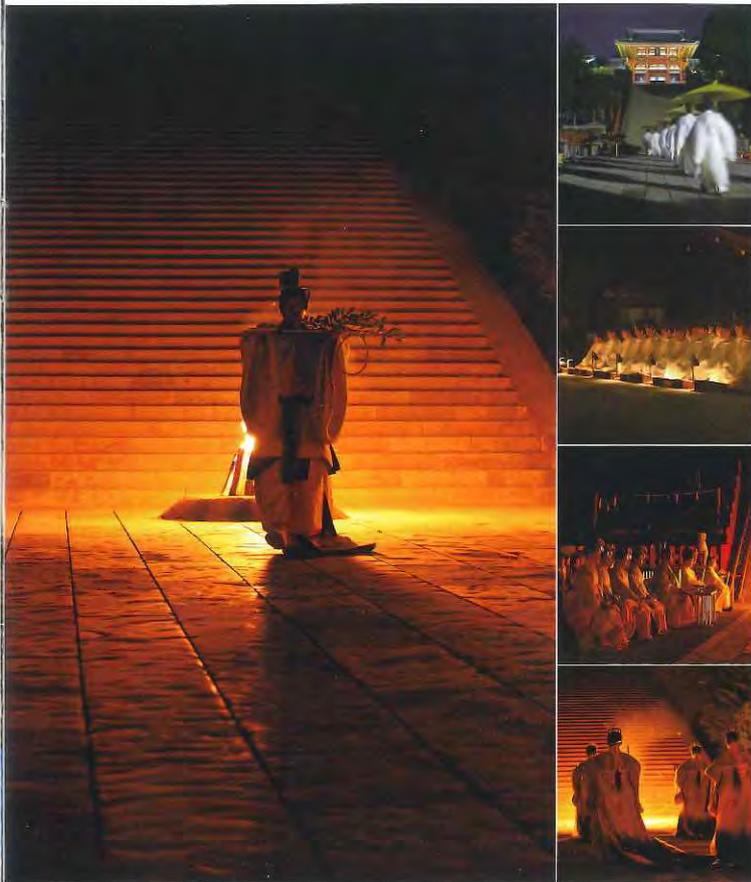
藤沢市西富の時宗総本山藤沢山無量
光院清浄光寺は、遊行寺という名で親
しまれています。時宗の法王が遊行
上人と呼ばれていることから、遊行上
人のお住まいになっているお寺とい
うことで、遊行寺と称されるようにな
ったといわれています。

遊行寺の年中行事には幾つかの念仏
会がありますが、今回はその中から、

伝えられた神楽ですので、特に御神楽
と呼ばれています。

鶴岡八幡宮は、今からおおよそ八百
年程前の建久二年（一一九二）に町
屋からの火災によって社殿が焼失した
後、復興再建され現在の姿になりました。
同年十一月二十一日の御遷宮の日
源頼朝は、京都から雅楽家の多好方
を招いて奉納させたことが始めとされ
現在ではこの日を太陽暦に換算した
十二月十六日の夜に行われています。

祭典の後の夕闇の中、舞殿北庭で宮
人の曲が和琴、笛、箏、拍子に合
わせて唱えられ、四人の巫女と人長
（舞人の長）の舞が篝火の灯りに映え、
往古の雅がよみがえります。



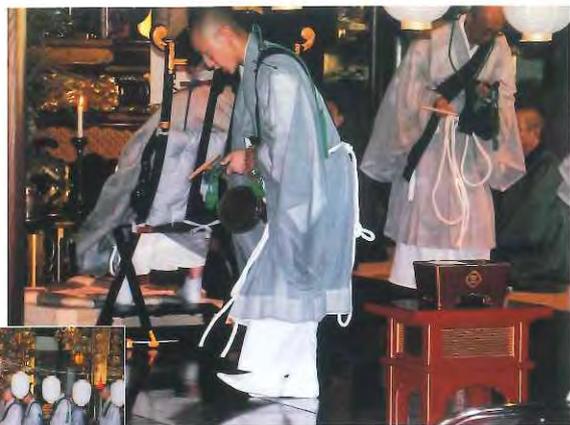
すすき念仏と踊り念仏をご紹介します。

九月十五日の午後、本堂内陣の前机
の先に置いた大花瓶に、薄、松、青竹
を活けます。青竹の高い位置には笹名
号（時宗宗務所発行『遊行寺』による）
がかけられています。

この周りを鉦を首から下げた上人を
始めとする僧達が鉦を打ちつつ名号を
唱えながら、能を思わせる足取りでき
わめてゆっくりと繰り返し、時計方向
に回ります。



踊り念仏保存会の女性たちによる「踊り念仏」。外陣中央に据えられた太鼓と首から下げた鉦のリズムに合わせて、念仏や和讃を唱えながら踊る。30分ほどの踊りのあと、御賦算（お札くばり）が行われる（左下）。



本堂の中央に据えられた薄の束の周りを上人と僧たちが静かに巡る。鉦の音と念仏の響きが心身の飛躍をもたらし、法悦を得るといふ。

躍動的な踊り念仏

こちらは、遊行寺の春秋の開山忌即

これはもともとは、孟蘭盆会中の法要として行われてきたものです。一説によると、弘安三（二二八〇）年に一遍上人が奥州江刺郡（現在の岩手県北上市稲瀬町）へ祖父河野通信の墳墓を訪ね、供養に際して行つたという念仏行道がその始めであろうといわれ、その後は怨霊供養を目的として行われてきたもののようです。

また、外陣との境には十八張の白張提灯が掲げられていますが、この提灯を頂いて田畑に吊るすと病害虫が付かないという伝承があります。

ち四月二十三日と九月二十三日の二回、本堂外陣で保存会の女性達によって行われます。

この踊り念仏は、寺伝によると江戸時代に伝えられたものといわれ、大正十二年（一九二三）の関東大震災により途絶えました（すずき念仏は続けられていました）。現行の踊り念仏は、昭和五十年代に長野県佐久市跡部の西方寺のものを参考に再興したものです。踊りは、合掌して南無阿弥陀仏を唱えながら、外陣の中央に据えた大小二張りの太鼓の周りを右に回ります。

入場では、太鼓の音で頭を下げ、腰を屈めて拝礼の姿勢で右足から前に進み出ます。和讃を唱える二人のサンシ

キと二十人前後の踊り手が内向きになって輪を作ります。こうして、身を観ずれば水の泡 消えぬる後は人もなし

といった一遍上人の別願和讃を唱える和讃、切り念仏、踊りの順に、二人の太鼓方の打つ太鼓の拍子に合わせて胸に掛けた鉦を叩き、足を前後そして左右にと跳ねて踊躍し、身体を前後に屈伸させたり、あるいは左右に振つたりしながら念仏や和讃を繰り返し唱えます。

どちらの行事でも、終わりに際して御賦算といって、遊行上人から念仏札が手渡されます。

藤沢のささら踊り

藤沢市遠藤◆藤沢市葛原

揃いの浴衣に帯を締めた樺掛けの女性たちが、ピンザサラと呼ばれる竹製の楽器を鳴らし、太鼓の拍子に合わせて踊ります。

ささら踊りとは

神奈川県旧相模国内には、幅二三センチ、長さ二〇センチ前後の割り竹をつないだピンザサラという楽器や小太鼓を打ち鳴らして踊る、少女を中心とした若い女性だけによって踊られた盆の踊りや唄が広く分布していました。これらは、江戸時代の初期から中期頃にかけて流行した、小町踊りまたは七夕踊りとも称されたものの流れを

くむもので、明治の中頃まで盛んでしたが、相次ぐ盆踊り禁止令や大正十二年（一九二二）の関東大震災の影響を受け大正末期には、そのほとんどが廃絶したようです。

現行のものは、昭和二十八、九年頃に足柄上郡南足柄町（現在の南足柄市）において地元の古老の指導のもとに婦人会有志によって復活し、「足柄ささら踊り」と命名されたのが最初で、その後各地で類似の盆唄の所在が明らか

になり、各地で復活しました。ささら踊りの特徴の一つに、例えば「こぼれ松葉を あれ見やしゅんせ 枯れて落ちてても 二人連れ二人連れ」といった七七七五調の独特な歌詞があります。

また踊りは、揃いの浴衣ゆかたに帯を締めた樺かた掛けの女性を中心とし、ピンザサラをつき、小太鼓を打つところに他の盆踊りとは異なった特徴があります。踊りは右回りの丸踊りを基本とし、扇

を二本もつ扇踊りがその代表的なものです。

ささら踊りは現在、藤沢市、秦野市、厚木市、海老名市、綾瀬市、南足柄市の六市で八団体が伝えていて、相模ささら踊り連合会を組織し、平成二十三年で三十五回目の公演を数えましたが、毎年七月下旬には各団体持ち回りで発表会を行っています。

藤沢市のささら踊り

藤沢市では、現在遠藤とほと葛原くさはらの二カ所で行われています。

遠藤では、八月十六日の午後地域こまつの古刹、玉雄山宝泉寺たまおんさんほうぜんじの閻魔会えんまかいの後かつては境内でしたが現在は本堂内で



遠藤民俗芸能保存会による「ささら踊り」（具指定無形民俗文化財。保存会は、昭和36年に設立。会員数46名。地区の行事のほか、毎年8月16日に古刹・宝泉寺で先祖供養のために奉納写真左下は、会長の片山ふさ子さん（中央）ほか。



鎌倉・藤沢の民俗芸能カレンダー

鎌倉・藤沢周辺地域の主な祭り、民俗芸能のスケジュールをご紹介します。

◆汐神楽

1月11日。材木座海岸。6ページ参照。
問：鎌倉市観光協会

◆左義長

1月中旬。大磯北浜海岸。ワラを積み上げたものに火をつけ、正月の飾り物などを燃やして無病息災を祈る。
問：大磯町観光推進室



写真提供：大磯町観光推進室

◆遊行寺の踊り念仏

4月23日、9月23日。遊行寺。11ページ参照。問：清浄光寺（遊行寺）

◆六所神社の鶯の舞

5月5日。近親場（馬場公園）。相模国の一宮から五宮、総社の六所神社が集う国府祭で奉納される。「鶯の舞」「龍の舞」「獅子の舞」で構成される。問：大磯町観光推進室

◆江の島天王祭

7月14日に近い日曜日。江島神社末社の八坂神社と縁の小動神社の合同祭礼。神輿の海中渡御や華麗な天王稚子でにぎわう。問：藤沢市観光協会



写真提供：藤沢市観光協会

◆浜降祭

7月第3月曜日。茅ヶ崎市西浜海岸。茅ヶ崎市と寒川町内の神輿が30基ほど参加して海中で渡ぎを行う。
問：茅ヶ崎市観光協会

◆遠藤ささら踊り

8月16日。藤沢市宝泉寺。14ページ参照。問：藤沢市教育委員会

問い合わせ先 ●鎌倉市観光協会：0467-23-3050 / 大磯町観光推進室：0463-61-4100 / 藤沢市教育委員会生涯学習課：0466-25-1111 / 藤沢市観光協会：0466-22-4141 / 茅ヶ崎市観光協会：0467-84-0377 / 清浄光寺（遊行寺）：0466-22-2063 / 鶴岡八幡宮：0467-22-0315 / 御霊神社：0467-22-3251 / 平塚市教育委員会社会教育課：0463-35-8124

◆いつとき祭

8月17日。鶴沼皇大神宮例大祭。半日で終わることから「いつとき」と呼ばれる。9基の人形山車が勢揃いし、囃子を競演。問：藤沢市観光協会

◆葛原ささら踊り

9月第1土曜日。藤沢市皇子大神。14ページ参照。問：藤沢市教育委員会

◆すすき念仏

9月15日。遊行寺。11ページ参照。
問：清浄光寺（遊行寺）

◆流鏝馬神事

9月16日。鶴岡八幡宮例大祭。800年以上の伝統をもつ神事。鎌倉武士の狩装束の射手が馬で駆けながら3つの的を射る。問：鶴岡八幡宮

◆面掛行列

9月18日。御霊神社。2ページ参照。
問：御霊神社

◆丸山稲荷火焚祭

11月8日。鶴岡八幡宮。8ページ参照。
問：鶴岡八幡宮

◆一ツ火

11月27日。遊行寺。全山の灯が消されたあと闇の中に一ツ火がともされ、念仏が行われる荘厳な念仏の儀式。
問：清浄光寺（遊行寺）

◆前鳥座人形芝居

平塚市。江戸時代中期に前鳥神社例祭奉納のために始まったとされる人形芝居。前鳥神社ほか、各地で公演。
問：平塚市教育委員会



写真提供：平塚市教育委員会

◆御鎮座記念祭

12月16日。鶴岡八幡宮。8ページ参照。問：鶴岡八幡宮



葛原芸能保存会による「ささら踊り」（県指定無形民俗文化財）。保存会は、昭和48年に設立。会員数45名。会長の漆原久美子さん（写真左下・右から2人目）を中心に、毎月1回練習し、葛原地区の盆踊りや祭礼行事に参加。

行われます。ここではささらの枚数が三十六枚という大きめのものを用いているのが特徴でもあります。
また、葛原では、九月上旬の皇子大神の祭礼の前夜祭に、境内の神楽殿で行われる演芸大会の演目として前後二回演じられます。初めは舞台の上だけで、後の方は舞台と庭とに分かれて演じられ、地域の方々も加わり思い思いに踊り興じる姿には、日本の芸能発生の母胎を感じさせられるような思いがします。

石井一躬（いしひ・かずみ）●神奈川県民俗芸能保存会会長。1941年、北海道函館市生まれ。早稲田大学大学院修了。県立高校教員を務め、県内を始め全国各地の民俗芸能の調査研究に従事。日本芸能史専攻。

写真左下/森精機フランステクニカルセンターのロビーで派遣団員18名と団長、副団長と。右上/フランス・ルーブルのトブラー社での視察研修。右下/ノートルダム大聖堂の前で。



海外派遣事業のご紹介

国際的視野の広い中小企業青年従業員の育成を目的として、昭和45年に「神奈川県中小企業技術者等海外派遣事業」を、また、平成1年に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を開始し、継続実施しております。現在まで、中小企業技術者等派遣事業に約840名、商業従業者派遣事業に約170名の方々が派遣団員として参加され、欧州の先進国で貴重な視察研修を体験されています。応募要領等詳しくは、ホームページをご覧ください。

海外派遣団員が語る ⑤

日本でも海外でも しっかりと会社は 個人のモチベーションが高い。

福島県田村郡三春町
株式会社 福島製作用所 生産本部 三春工場 桑原 純さん



三春工場・品質保証課
係長の桑原さん(41歳)。

最初は乗り気ではなかったが…

昨年三月六日から八日間の日程で海外派遣研修(第四十回神奈川県中小企業技術者等海外派遣団)に参加させていただきました。訪問先は、デンマークとフランスの中小企業六カ所とID A(デンマーク技術者協会)という技

術者の支援組織の計七カ所でした。訪問期間中に東日本大震災があったので忘れることはできません。

最初、工場長(橋本浩一さん)から参加を薦められたときは、お断りしようと思いましたが。私は横浜に本社がある福島製作用所の三春工場に勤めていますが、福島以外は横浜の本社に六年い

たぐらいで、なにしろ海外には行ったこともありません。言葉も通じないのに冗談じゃないと(笑)。しかし、百聞は一見に如かず、日本との違いを感じてくるだけでもプラスになるとのアドバイスをいただき、よし、それならと気持ちを切り替えて、積極的に参加させていただきましたが、意外にもそれほど日本との違いがなかった、というのが実感でしたね。

日本式の改善活動

視察前に抱いていた欧州企業のイメージは、漠然とですが、技術力と生産効率が主で、改善システムは二の次、まして集団で話し合いながら仕事を進

めてゆくというイメージはありませんでした。個人主義の文化ですからね。でも、実際には、そうではなかった。たとえば、デンマークで訪ねた「アルファ・ラバル社」ですが、ここは熱交換機、遠心分離機、ポンプ、バルブ、タンクなどを生産している会社で、日本にも進出しています。この会社では積極的に日本式の改善活動を取り入れていました。説明する人の言葉にも盛んに「5S」「TPM」という言葉がでてくるんです。

「5S」とは、「整理・整頓・清潔・清掃・しつけ」のことです。「TPM」は「Total Productive Maintenance(総合的設備管理)」で、壁にも改善活

互省製作所は主に、工作機械や自動車、オートバイ用の高強度ボルトを製作。写真
 上右/取締役三春工場長の橋本浩一さんと製品を点検。上左/工場玄関口に展示し
 た製品見本。中右/三春工場前で。左から橋本工場長、桑原さん、生産本部マネー
 ジャーの椿雄太さん。中左/工場内。下右/デスクでの桑原さん。下左/横浜の本社。



[東急東横線・網島駅と大倉山駅周辺] 右/鶴見川。左/大倉山記念館。



働の表示板が貼ってあって、「なんだ、うちの会社と同じじゃないか(笑)」。
 この会社がいい例でしたが、日本でも海外でも、しっかりした会社は、どこもモチベーションが高いというか、個人のモチベーションを高めてゆくに努力をしていることを感じました。また、そうでなければ勝ち残ることができないということでしょうか。

働く人が日本と違う！

しかし、働く人の違いは感じましたね。朝は会社に準備してある軽食で食事をとりながら仕事を始めるなど、くつろいでいる感じでしたし、機械が止まっていてもマイペースで、あくせく

した感じがしない。もちろん、私が見た範囲、感じた範囲のことかもしれない。そして勤務時間が終わると、さっさと帰ってしまう。金曜は半ドンですし、土、日は完全休日。日本では、そこまで徹底していません。

それから、製作現場に女性がいたことや、転職する人が多いという話も印象的でした。数年間隔で転職し、その中から最終的に自分にあった会社を決める人が多く、中には初めの会社に入り直す人もいます。そのあたりは日本とは違いますが、それをどう感じるかは人それぞれだと思います。

海外研修に参加して変わったことですか？ 自分では分かりませんが、一

<http://www.goshu-jp.com>



桑原純(くわはら・じゅん) ●昭和45年、福島県生まれ。63年、株式会社互省製作所に入社。現在、生産本部 三春工場 品質保証課 品質管理係係長。

回り大きくなったんじゃないかと工場長からは言われますが、そうだとしたら、うれしいですけどね(笑)。(談)

ロビーコンサート(ランチタイムコンサート)

- 会場 横浜銀行本店ビル2階本店営業部ロビー
- 時間 12時15分～12時45分(30分)

開催日	内容	出演者	曲目
5/14 (月)	木管三重奏 (オーボエ、 クラリネット、 ファゴットによる)	西入優子 (オーボエ) 石村亜矢子 (クラリネット) 山下伸介 (ファゴット)	モーツァルト： ディベルティメント エルガー：愛の挨拶 アメーzingグレイス 他
7/9 (月)	無伴奏 ヴァイオリンの 魅力	大堀由美子 (ヴァイオリン)	バッハ：無伴奏ヴァイオリン ソナタ2番より グラウヴェ、フーガ 長沢勝俊：独奏尺八のための 詩曲 大堀由美子編曲：神奈川のうた <横濱童謡メドレー>

《予約制》ラウンジコンサート(アフタヌーンコンサート)

- 会場 横浜銀行本店ビル1階ラウンジ「ル・ボール」
- 時間 15時00分～16時00分(1時間)

開催日	内容	出演者	曲目
6/11 (月)	やすらぎの歌— イギリスと 日本のうた	名倉亜矢子 (ソプラノ) 金子 浩 (リュート)	浜辺のうた、月の砂漠、 赤い靴、サリー・ガーデン、 グリーンスリーヴス、 涙のババース 他

*各コンサートとも、曲目を変更する場合がありますので、ご了承ください。



左から西入優子さん、石村亜矢子さん、山下伸介さん

大堀由美子さん

名倉亜矢子さん・金子浩さん

●次号予告(2012年6月下旬刊)
「かながわ伝統工芸品物語」(仮題)

財団法人はまぎん産業文化振興財団
事務局参与 清水照雄

財団法人はまぎん産業文化振興財団
事務局参与 清水照雄

「かながわ民俗芸能祭」を毎年十二月に神奈川県民俗芸能保存協会及び神奈川県とともに開催しております。「マイウエイ」および「かながわ民俗芸能祭」を通して、民俗芸能の伝承並びに発展のお役に立つことができ得れば誠に幸いです。最後にになりましたが、監修・執筆をいただいた石井一躬氏をはじめ、取材にご協力をいただいた皆さま方に、厚く御礼を申し上げます。
次号は、来年三月に「小田原・箱根編」の発行を予定しております。

はまぎん財団ふれあいコンサート2012のご案内

大変ご好評をいただきました「はまぎん財団ふれあいコンサート(無料)」の24年度の開催につきまして、ご案内いたします。

5月のロビーコンサートを始めとして、ラウンジコンサート及びヴィアマーレコンサートを含め、23年度と同様に計9回の開催を予定しております。5月から7月までの開催内容は左記のとおりです。

なお、6月のラウンジコンサートは予約制となります。8月以降につきましては、別途、ホームページ、インフォメーション等でお知らせいたします。どうぞ、お気軽にお越しください。

ラウンジコンサートのご予約申込方法は次のとおりです。

- 募集人員 60名
- 申込方法 往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数(1名または2名)を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 「はまぎん財団コンサート係」まで、お申し込みください。
- 募集期限 平成24年5月10日(木)(当日消印有効)
申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。
※はがきに記載された個人情報、催事のお申し込みのみに使用し、厳正にお取り扱いします。
- お問い合わせ 財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局
(横浜銀行本店ビル13階内) 電話045-225-2171、
平日9時～17時)
- 交通アクセス JR線・横浜市営地下鉄線 桜木町駅下車、
動く歩道利用徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅下車7分
- 協賛 横浜銀行
- 協力 オフィス KOM

マイウエイでは、県内各地に伝わる民俗芸能を広く地域の皆さまにご紹介するため、昨年三月に第一号として、「かながわ民俗芸能物語」横須賀・三浦編」を発刊いたしました。第二号となります本号は、「鎌倉・藤沢編」として、鎌倉に伝わる面掛行列、神楽並びに、藤沢に伝わるさらさら踊りと遊行寺の念仏行事などを紹介いたしました。したが、いずれも人々の絆や地域のつながりによって受け継がれている大切な暮らしの文化であることを改めて感じた次第です。

また、当財団では、県内各地に伝わる民俗芸能をご披露する「かながわ民